

総研大 アジア冬の学校

鈴木 康 浩

総合研究大学院大学（総研大）・物理科学研究科・核融合科学専攻は、総研大アジア冬の学校を2018年1月29日から2月2日までタイのチェンマイで開催しました。2015年度まで、総研大アジア冬の学校は専攻の基盤機関である核融合科学研究所を会場として開催してきましたが、近年、経済発展が目覚ましい、東南アジアの優秀な学生をより多く招へいすることを目的として、東南アジアの国々で開催することとしました。昨年度、東南アジアでの初めての開催として、タイ・チェンマイにて2016年12月12日から14日まで実施しました。本年度はタイ国家原子力研究所（TINT: Thailand Institute of Nuclear Technology）が主催しているASEAN School on Plasma and Nuclear Fusion（ASPNF）と共催の形で、昨年度と同じくタイのチェンマイで開催されました。これは、2016年度に、タイ・チェンマイ大学、TINTと核融合科学研究所との間で締結した、研究と教育に関する学術協定を活用することにより可能となったものです。

総研大単独開催であった昨年度の冬の学校では、タイ及びベトナムから36名の学生を受け入れました。しかし、本年度はASPNFと共催することにより、タイ、インドネシア、ネパール、パキスタン、フィリピン、韓国、日本の計7か国から84名の参加がありました。このことにより、より多くの参加者に総研大の教育研究活動を知ってもらうことが可能となります。また、今回もチェンマイ大学に会場の提供や運営など全面的に協力していただきました。会場はチェンマイ大学理学部のセミナー室を使用し、昼食も会場内で全員一緒にとることができ、講義に集中できる素晴らしい施設でした。



大館准教授の講義で熱心に質問する学生

当研究所からは総研大・核融合科学専攻長でもある竹入康彦所長、副専攻長の榊原悟教授、大館暁准教授、田中照也准教授と筆者の5名が講師として参加しました。また、総研大生が2名、管理部からも1名が参加しました。今回の冬の学校では、総研大核融合科学専攻として、60分の基調講演、90分の講義を4コマ実施しました。60分の基調講演では、竹入所長が日本の核融合研究開発に関する現状を報告しました。プラズマ・核融合の基礎から、シミュレーションや計測についての実践的な講義、また、核融合工学に関する講義などが総研大の講師陣から行われました。ASPNF側が企画した講義としては、タイ・フランスなどの核融合研究開発の現状、さらにチェコ・プラハ工科大学に設置されているGOLEMトカマク装置実験に遠隔参加!する試みも行われました。

参加した学生は大変熱心で、活発な質疑応答が行われたほか、講義時間外にも多くの学生が質問を寄せるなど強い意欲を感じました。総研大への進学についても多数の質問を受けました。今後、多くの学生が核融合科学専攻に志願してくれることを願っています。タイ北部に位置するチェンマイは、気温は高いものの湿度が低く、大変過ごしやすいところです。また、歴史的建造物も多く、タイを代表する古都でもあります。素晴らしい環境の下で冬の学校を開催するにあたり、TINTとチェンマイ大学のスタッフには親身にご協力いただきました。中でもTINTのThawatchai Onjun常務副理事、Roppon Picha研究員、チェンマイ大学のDheerawan Boonyawan、Udomrat Tippawan 両准教授に深く感謝いたします。

（核融合理論シミュレーション研究系 准教授）



竹入所長・専攻長による講演